

イデックスオイルレポート ~For a week~

2021/2/5作成 (株)新出光

【概況】 <経済指標の改善、サウジの自主減産開始により原油上昇>

- 29日、米エネルギー情報局(EIA)週報で、米原油在庫が市場予想の小幅増加に反して990万バレルの大幅な取り崩しを記録し、在庫急減を受けた需給引き締め期待が投資家心理を支え、早朝は買いが優勢でしたが米株価が急落すると、株式と並んでリスク資産とされる原油も下押しされ、朝方の上げ幅を一掃しました。再拡大を警戒する中国が規制を強化しているため、エネルギー需要減退懸念も根強かったようです。
- 1日、石油輸出国機構(OPEC)主導による協調減産やOPEC盟主のサウジアラビアが2月の原油供給を一部削減するとの報に加え、今後数週間の在庫減少観測や投資家のリスク選好が原油相場の支援要因として指摘されています。世界的な景気回復に伴うエネルギー需要持ち直しの期待も原油買いにつながっているようです。
- 2日、2021年1月の石油輸出国機構(OPEC)の産油量は7カ月連続で増加したものの、増加幅が市場予想を下回りました。サウジアラビアが先に2~3月中に日量100万バレルの追加減産を行うと表明しており、需給不均衡に対する警戒感が後退しています。また、米国での新型コロナウイルス経済対策の成立で景気回復が進み、エネルギー需要が促されるとの期待が高まっており、米北東部を中心とした大雪や低温で暖房需要が高まったことも、原油の押し上げ材料となっています。
- 3日、米エネルギー情報局(EIA)が3日午前公表した週間石油統計によると、1月29日までの1週間に米国内原油在庫は100万バレル減少し、市場予想の40万バレル増に反して取り崩しとなったものの、2日の米石油協会(API)週報は430万バレル減を示していたことから、市場の需給引き締め期待はやや後退しています。
- 4日、OPECプラスは合同閣僚監視委員会(JMMC)を開き、サウジアラビア主導の大幅な協調減産が続くことへの安心感が広がったほか、バイデン米政権による追加経済対策の早期実現期待も重なり、上昇しています。

2月5日 17:00現在 WTI原油 56.72ドル 為替 1ドル 105.40円

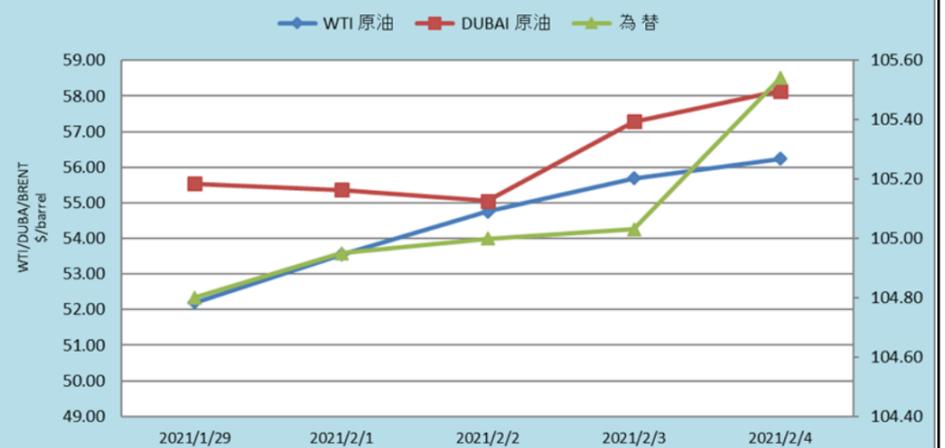
国内石油製品在庫 1月30日時点

単位万KL



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ

単位 円



次回元売変動予測

2/11~ 元売変動予測

ガソリン	➡	+2.0~+2.5
灯油	➡	+2.0~+2.5
軽油	➡	+2.0~+2.5
A重油	➡	+2.0~+2.5
LSA	➡	+2.0~+2.5

※現段階の原油コストによる予想です。

【製品卸価格】 <原油コスト大幅上昇>

《今週》今週の元売り仕切り改定は「+0.5円」の値上げでした。原油コストはほぼ横ばいでしたが、サウジアラビアからの調整金「+0.5」が仕入れに加味された形です。月初から原油相場も上昇傾向でしたので、改定が+0.5に対し、市況の上昇が改定幅以上に進みました。ただ引き続き需要の少ないことから市況が油種によってはENEOSの先行指標と2.0円以上乖離している状況です。

《2月6日以降》来週の元売り改定は現状の原油コストで「+2.0~+2.5円」の大幅値上げ予測です。原油相場が5日連続の上昇となり、堅調な様子から次回の値上げ改定は必至です。現在の市況の最安値を形成しているのは週決め玉のディーラーが中心となっていますが、少し高いレンジのところでも月間リンクの仕入れ玉のディーラーも少しずつ枠消化を進めています。週末から改定前までに仮需が少なからず起こると思われませんが、改定まであまり市況が上がらない状況が続くと思われれます。また、改定後からは月間リンクの仕入れ玉の販売が本格的となり、市況が崩れる可能性が高いと思われれますので、改定幅まではラックも上昇しないことが十分考えられます。

【トピック】 <気象庁1ヶ月予報>

4日に発表された気象庁の1ヶ月予報では、2月6日~3月5日の平均気温は平年よりも高い確率が関東から九州までは70%以上、東北でも50%以上の確率であると発表されました。現在はまだ朝晩の気温も低く、暖房需要もありますが、2月後半に向けて需要の後退が進むことが考えられます。また気象庁の予報は1月でのラニーニャ現象による気温の低下と降雪の可能性を予測していたことから信憑性が高く、今回の予報をもとに灯油の販売を急ぐディーラーが出てくる可能性は高いと思われれます。灯油の国内石油製品在庫を見てみると、前年や先週よりも低い在庫水準となっていますが、今後の需要減や2月の営業日数の少なさから、早めの枠消化意識は高くなっています。1月末での相場崩壊の記憶が焼き付いているのでディーラーも多く、月後半まで販売を伸ばしたくないという心理も働いているようです。